



Title	尾瀬ヶ原中田代竜宮地区におけるシカの湿原植生摂餌, 攪乱場所とその変遷
Author(s)	谷本, 丈夫; Tanimoto, Takeo
Description	電子資料追加
Citation	低温科学, 80, 507-517
Issue Date	2022-03-31
DOI	https://doi.org/10.14943/lowtemsci.80.507
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84938
Type	departmental bulletin paper
File Information	38_p507-517_EM_LT80.pdf, 電子資料



尾瀬ヶ原中田代竜宮地区におけるシカの湿原植生摂餌,
攪乱場所とその変遷

谷本丈夫¹⁾

Foraging and disturbance of mire vegetation by shika deer and
resulting mire evolution at Nakatashiro Ryugu area of Ozegahara.

Takeo Tanimoto¹

1) 宇都宮大学名誉教授

1 Professor Emeritus, Utsunomiya University, 9599-4 Yuki Yukishi, Ibaraki, 307-0001,
Japan

責任著者

谷本丈夫 (宇都宮大学名誉教授)

〒307-0001 茨城県結城市結城 9599-4 • e-mail: nqa26719@nifty.com)

EM1 図1-図6: 龍宮小屋前の木道における攪乱跡地の経年変化



EM1図1: 龍宮木道至仏山方向一部, 部分的に攪乱が始まる。(2007年6月3日)



EM1図2: 龍宮木道至仏山方向, 木道の間に残るミツガシワ。(2008年7月6日)



EM1図3: 龍宮木道至仏山方向, 左側及び至仏山側に攪乱が広がる, 前右下, 緑の芽吹きはヤチスゲ, 奥の黄緑はハクサンスゲ。(2009年5月20日)



EM1図4: 龍宮木道至仏山方向, 木道の間にあったミツガシワ衰退。(2010年7月14日)



EM1図5: 龍宮木道至仏山方向, 攪乱が広がり, 緑のハクサンスゲが増える。(2011年5月27日)



EM1図6: 尾瀬木道至仏山方向, さらに攪乱が広がる。(2012年5月23日)

EM1 図6-図12: 龍宮小屋前の木道における攪乱跡地の経年変化



EM1図7: 龍宮木道至仏山方向, 右手前の攪乱大きく なっている。 (2013年6月13日)



EM1図8: 龍宮木道至仏山方向, 防鹿柵が設置され る。 (2014年5月28日)



EM1図9: 龍宮木道至仏山方向, 右手前わずかに残る リュウキンカ。 (2015年5月26日)



EM1図10: 龍宮木道至仏山方向, 木道に沿ってハク サンスゲ繁茂。 (2016年6月9日)



EM1図11: 龍宮木道至仏山方向, 融雪直後新たな攪 乱は減少。 (2017年6月9日)



EM1図12: 龍宮木道至仏山方向, 左側柵側奥ヨシ楢 円形部の白い花はドクゼリ, 右側ハクサンスゲ, 木道 内ミズバショウ。 (2018年8月2日)

EM2 図1-図6:長沢, セン沢出会い付近までのミツガシワ群落の攪乱変化



EM2図1: 湾曲部の攪乱, 奥の方はミツガシワの絨毯. (2006年7月5日)



EM2図2: 奥の湾曲部は攪乱やや大きく僅かな攪乱が見えるが前年と大きな差はない. (2007年8月5日)



EM2図3: 湾曲部の攪乱が広がる. (2008年7月6日)



EM2図4: さらに広がった湾曲部の攪乱. (2009年7月5日)



EM2図5: 湾曲部はほぼ裸地になった. (2010年8月4日)



EM2図6: 奥の湾曲部も空隙が多くなった. (2011年8月)

EM2 図6-図12:長沢, セン沢出会い付近までのミツガシワ群落の攪乱変化



EM2図7: さらに空隙が多く水面が見える。(2012年7月5日)



EM2図8: 全域でミツガシワの絨毯がなくなった。(2013年9月7日)



EM2図9: 2013年との差はほとんどない。(2014年欠, 2015年9月)



EM2図10: ミツガシワの絨毯跡は水面。(2016年5月28日)



EM2図11: 泥土にはミツガシワの再生が見られる。(2017年9月3日)



EM2図12: 前年との違いは見られない。(2018年8月2日)

EM3 図1-図7: 紡錘状地から富士見峠方向, 長沢の蛇行域付近(図1E付近)におけるミツガシワ群落の攪乱変化



EM3図1: 竜宮外周の攪乱, 中央右寄り奥紡錘状地.
(2012年6月12日)



EM3図2: 竜宮外周の攪乱, 芽吹き前融雪直後中央右寄り緑の紡錘状地. (2013年5月28日)



EM3図3: 竜宮外周の攪乱, 中央右寄り緑の紡錘状地.
(2014年5月28日)



EM3図4: 竜宮外周の攪乱, 中央右寄り緑の紡錘状地.
(2015年6月10日)



EM3図5: 竜宮外周の攪乱, 中央右寄りやや遠くなった緑の紡錘状地.
(2017年6月7日)



EM3図6: 竜宮外周の攪乱, 中央奥, 4つ見える人影の前が紡錘状地.
(2018年6月2日)



EM3図7: 竜宮外周の攪乱, 中央奥右寄り, 人影の前が紡錘状地.
(2019年6月4日)

EM4 図1-図5: 下ノ大堀川ミズバショウ撮影ポイントのミツガシワ群落(図26A)の攪乱とミズドクサ群落への摂餌



EM4図1: 下ノ大堀川ミズバショウ撮影ポイントのミツガシワの攪乱, 中洲の攪乱が初めて確認された。
(2014年5月29日)



EM4図2: 下ノ大堀川ミズバショウ撮影ポイントのミツガシワの攪乱, 中洲の攪乱がさらに拡大。
(2015年6月24日)



EM4図3: 下ノ大堀川ミズバショウ撮影ポイントのミツガシワの攪乱, 中洲の攪乱と同時にミツガシワの地上部も摂餌。(2016年9月1日)



EM4図4: 下ノ大堀川ミズバショウ撮影ポイントのミツガシワの攪乱, 中洲水際のミツガシワ地上部も摂餌されなくなった。(2017年9月5日)



EM4図5: 下ノ大堀川ミズバショウ撮影ポイントのミツガシワの攪乱, さらに中洲水際のミツガシワの地上部は摂餌されなくなった。(2018年6月2日)

EM5 図1-図6: 下ノ大堀川と牛首分岐間(図26B)における池澮のミツガシワ根茎の攪乱



EM5図1: 池澮に浮いたミツガシワの根茎, 木道からの撮影。(2009年6月18日)



EM5図2: 池澮に浮いたミツガシワの根茎, 急激で強度な木道からの撮影。(2010年6月17日)



EM5図3: 池澮に浮いたミツガシワの根茎, 急激で強度な木道からの撮影と池澮, 上辺のシカの蹄跡。(2011年6月14日)



EM5図4: 池澮に浮いたミツガシワの根茎は少なく, 急激で強度な木道からの池澮, 上辺のシカの蹄跡。(2012年6月14日)



EM5図5: 池澮に浮いたミツガシワの根茎は少なく, 急激で強度な木道からの池澮, 上辺のシカの蹄跡。(2013年6月12日)



EM5図6: 池澮に浮いたミツガシワの根茎は見られず, 撮影は行われていない。(2014年6月12日)

電子資料 (EM)

尾瀬ヶ原中田代竜宮地区におけるシカの摂餌，攪乱発生場所とその変遷

谷本丈夫

EM5 図7-図10: 下ノ大堀川と牛首分岐間(図26B)における池澮のミツガシワ根茎の攪乱



EM5図7: 池澮内にミツガシワの再生個体があり，攪乱がなかったと思われる。(2015年6月16日)



EM5図8: 池澮に浮遊物が見られ，水深が浅くなっているのか前年に見られなかった，蹄跡が見える。(2016年5月28日)



EM5図9: 池澮にミツガシワの根茎があり，9月で水深が浅く前年に見られなかった蹄跡に植被が戻っている。(2017年9月3日)



EM5図10: 図9より池澮の水深が浅く，前年に見られなかった浮遊物が多く湿原化の兆しが窺える。(2018年8月3日)